

科目名称	初等教科教育法（国語）
授業コード	AI226
英語名称	Teaching Methodology of Elementary Subjects (National language)
学期	2024年度前期
単位	2.0
担当教員	前嶋 深雪
※記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	○国語（日本語）についての深い知識と考察を基盤に国語の授業づくりが行われること、教育活動では、言葉を通して先生と児童、児童と児童が関係性を形づくることから、国語（日本語）についての理解は小学校の教員にとって必須である。本授業では、学習指導要領を読み取り、国語科教育についての知識及び理解を深めると同時に、自分自身が使っている日本語という言語をふりかえりながら、国語（日本語）という言語について理解を深めるために、チームでの話し合いや全体での考えの共有をする時間を持つ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	○小学校での「学び合い」の校内研究の講師・中学校及び高等学校の国語科教諭としての経験と、若者を対象としたコミュニケーション講座講師の経験で獲得した国語（日本語）の能力を高める手法を活用する。言語知識としての習得及び言語運用をしながら体験を含め、「楽しみながら学ぶ」授業展開をしていく。知識のインプットと表現のアウトプットをバランスよく授業時間内に配置し、主体的・対話的で深い学びの体感を持てるようにする。
到達目標	○国語科の学習指導要領では指導内容の〔知識及び技能〕と〔思考力・判断力・表現力〕として、日本語についての理解と言語能力を身につけ、他者とのやりとりのために必要な日本語運用の育成が目指されている。小学校の教員として、小学校国語科の教育内容及び国語（日本語）についての理解を深めるために、本授業での具体的な到達目標は「学習指導要領（国語科）の指導内容について知る」「国語科教育に求められている学びの内容を理解する」「国語（日本語）の言語の性質を知る（日本語学の知識）」「日本語学の知識を基盤に、国語の指導方法や教材活用の視点を得る」の4つとする ○学科が定めるディプロマ・ポリシーに関する位置づけは以下のとおり。 【知識・技能】授業づくりや授業展開に必要な国語（日本語）に関する考え方や学術的知識を理解し、子どもの育ちに即した教育方法を実践することができる。 【使命感・思考力】言語能力やコミュニケーションに関する言語の知識など教育の場で必要となる技能や知見を身に付け、協働しながら、取り組むことができる。 【人間力・指導力】言語や国語科の内容を基に指導計画を作成し、省察・改善することができる。 【創造的な保育や教育】言語の知識や言語能力の理解を踏まえて、未来を担う子どものための新たな教育方法を模索することができる。
計画・内容	第1回 イン트로ダクション 言語能力とは？ 第2回 国語科の目標 日本語を学ぶための視点 第3回 語彙指導 語彙の性質の理解（メタファとメトニミー） 第4回 情報活用能力 国語科と情報の学びの関連/情報機器と教材の活用 第5回 言語と言語文化① 歴史的な視点を踏まえた言語観・テキスト観 第6回 言語と言語文化② 文字と表記の歴史/書写指導（毛筆・硬筆） 第7回 話すこと・聞くこと（話し合うこと）

計画・内容	音声言語の特徴（話す身体と環境の相関） 第8回 書くこと 書記言語の特徴 第9回 読むこと テキストを仕立て上げる言葉 第10回 課題実践① 指導案の書き方と教材研究 第11回 課題実践② 単元計画と本時の指導/評価規準/板書計画 第12回 課題発表① 模擬授業1（指導案及び教材・手法研究の共有） 第13回 課題発表② 模擬授業2（指導案及び教材・手法研究の共有） 第14回 課題発表③ 模擬授業3（指導案及び教材・手法研究の共有） 第15回 課題発表④/課題レポート 模擬授業4（指導案及び教材・手法研究の共有）
授業の進め方	○各回テーマが異なるため、各回の授業目標と授業内で提示する設問について説明する時間をとる。各回のテーマごとに異なるメンバーで話し合いの時間を持ち、チームで考える時間と全体で共有しながら理解を深める時間を配分しながら授業を展開していく。また、各回の授業の最後に、ふりかえりのコメントシートを提出する。
能動的な学びの実施	○学生どうして考えの交流を行い、一つの課題について合意形成・課題解決をする時間を持つ（チームで話し合うアクティブラーニングの形式を導入）。また、授業ごとにコメントシートに「新しい発見」を記入し、ポートフォリオとしてふりかえり、学修の深まりを実感できるようにする。
授業時間外の学修	○各回テーマが異なるため、授業終了後の復習として、授業内容をまとめておくこと（各回約1時間相当） ○教科書である「小学校学習指導要領解説（国語編）」を何度も読み、記述内容の把握と理解をしておくこと（各回約1時間相当） ○各回テーマに該当する各教科書会社の検定教科書（こくご）の第1学年から第6学年までに目を通し、どのような教材が採用されているのかを理解すること（各回約2時間相当） ※15回で約60時間相当の予習及び復習の時間を持つこと
教科書・参考書	教科書：小学校学習指導要領解説 国語編
成績評価方法と基準	○授業参加及びコメントシート提出30%と課題実践と発表35%、課題レポート35%で総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	○コメントシートでのふりかえりを授業の最初に紹介し、疑問や質問から考えを深めていく時間を持つ。
オフィスアワー	○CampusSquareを参照
留意事項	○考えを応答する時間や思考のアウトプットの多い授業となるため、体調やぐあいが悪いと十分な学びができなくなるので、健康に留意して授業に臨むこと。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方：Zoomによるオンライン授業にて実施する。 ②成績評価方法と基準：Zoom受講及びコメントシート提出30%と課題実践と発表35%、課題レポート35%を総合的に評価する。